

主 文

本件上告を棄却する。

理 由

弁護人岡本弘、同伊藤静男連名の上告趣意は、違憲（一三条、一四条違反）をいうが、刑法一八六条二項所定の賭博開張図利行為が、風俗を害し、公共の福祉に反するもので、実質的に違法であることは、当裁判所の判例（昭和二五年（れ）第二八〇号同年十一月二二日大法廷判決・刑集四卷一―号二三八〇頁）の趣旨に徴し明らかであり、また、右規定は、同条項に規定する行為を何人に対しても禁止し、これに違反したものを無差別に処罰するものであるから、所論は、いずれも前提を欠き、その余の所論は、量刑不当の主張であつて、すべて刑訴法四〇五条の上告理由にあたらない。

よつて、同法四一四条、三八六条一項三号により、裁判官全員一致の意見で、主文のとおり決定する。

昭和五〇年五月二六日

最高裁判所第二小法廷

裁判長裁判官	吉	田	豊
裁判官	岡	原	昌男
裁判官	小	川	信雄
裁判官	大	塚	喜一郎